

データロガー(CR1000 など)、Loggernet 経由で接続する方法

2016/09/15 クリマテック株式会社

データロガーとは 図3-1 のように接続します。SDI バスのデータ線はデータロガーの C ポートの内 SDI 通信に割り当て可能なポート（詳細はデータロガーの取扱説明書を確認してください。）に接続します。以下の例では、C1 ポートで通信します。配線、電源投入完了後、Loggernet でデータロガーと接続します。アドレス変更は以下の手順で行います。（PC200W では設定できません）

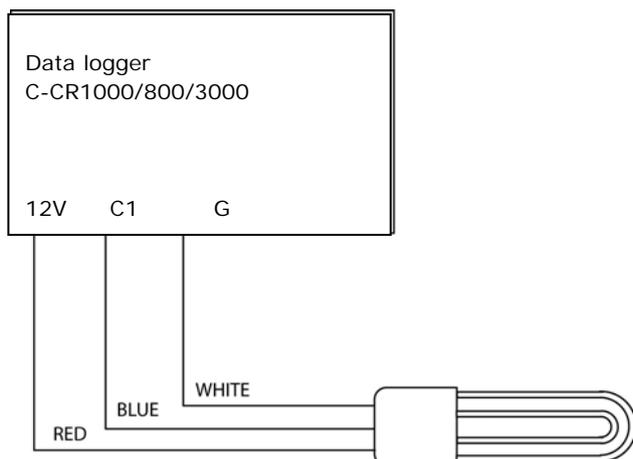
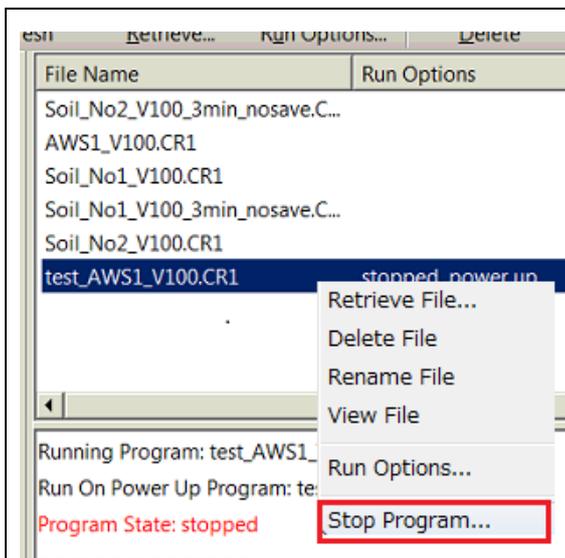


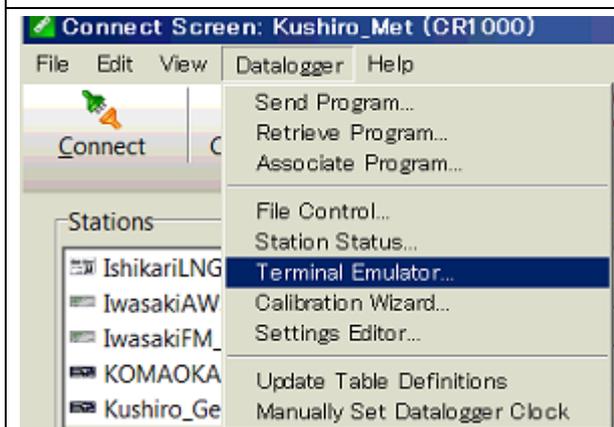
図 3-1 ロガーに TDT センサーを接続して SDI アドレスを割り振る場合の結線

データロガー経由 SDI のアドレス設定手順

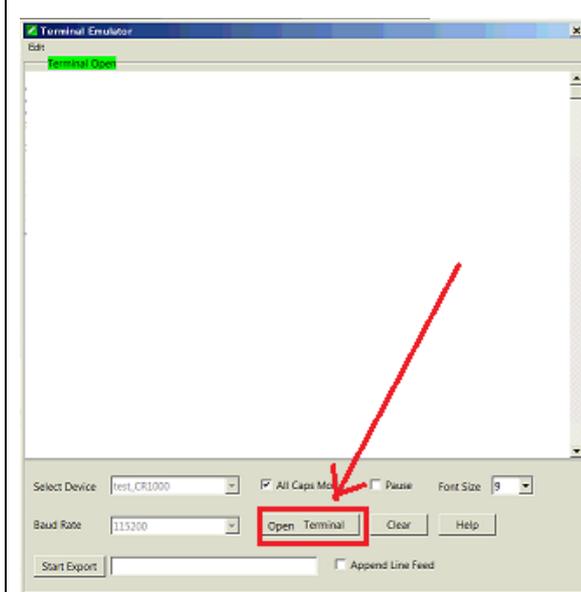
	<p>① データロガーに接続します。 データロガーと LoggerNet、PC200W との接続については、別途取扱説明書をご覧ください。</p>
	<p>② SDI 設定中は、既存プログラムが動作していると、うまくできない場合があります。プログラムを消去するか、止めるため、ファイルコントロールを開きます。</p> <p>Connect→Datalogger→File Control</p>



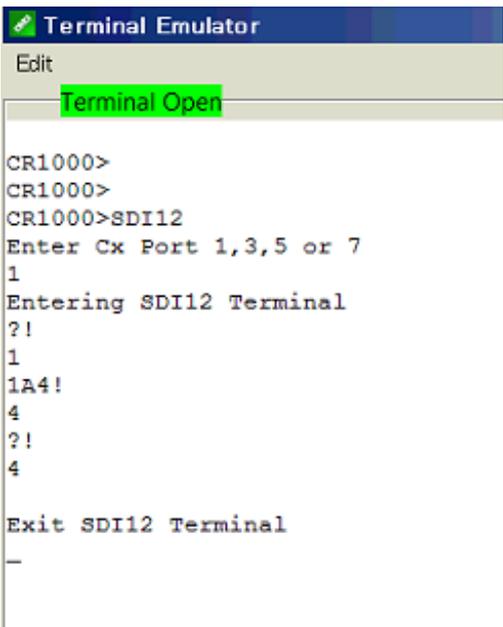
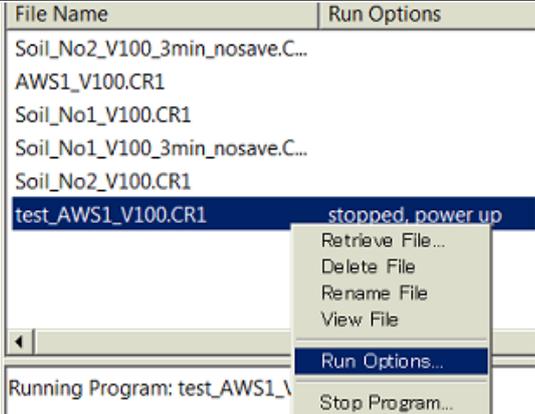
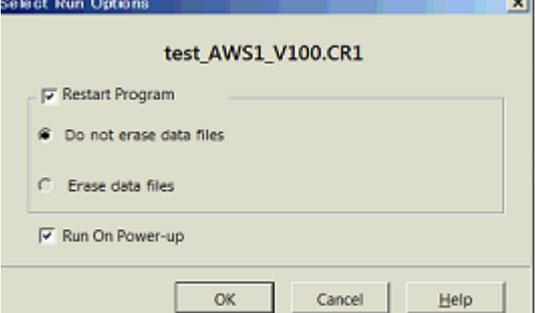
③ 現在動作しているプログラムが、
running, power up
と表示されているので、そのプログラムの上でマウスを右クリック、Stop Program を選択します。



④ ターミナルエミュレータを開きます。
Connect→Datalogger→Terminal Emulator



⑤ Open Terminal をクリックします。

	<p>⑥ ターミナルエミュレータ内の操作 何回か、Enter をおすと、 CR1000> または CR800> などと表示されます（ロガーに依存） 上記表示されたら、SDI12 と入力 CR1000> SDI12 Enter Cx Port 1,3,4 or 7 と聞いてくるので、接続しているCポートを選択。 例の図 3-1 ではC1 なので、1 を入力。 Entering SDI12 Terminal と表示され、SDI12 コマンドが入力できるモードになります。 ここからは、SDI12 コマンドになります。 コマンドの後、Enter を押します</p> <p>?! ・・・現在のアドレス問い合わせ 1A4! ・・・アドレスを4に変更</p> <p>時間がたつと、 Exit SDI12 Terminal と表示されるので、Close Terminal ボタンをクリックして、終了する。</p>
	<p>⑦ 再度ロガーのプログラムを動作させる ロガーのプログラムを再度起動します。 ②のファイルコントロールより、 Connect→Datalogger→File Control Stopped, power up と表示されているプログラムを右ボタンで、 Run Option を選択</p>
	<p>再スタートさせます Restart Program Do not erase data files Run ON Power-up を選択します。</p>